

教職員の交流を通して児童・生徒の学習活動の活性化を図る

ねがい

〈目的〉

自分の役割を自覚し、主体的に行動するとともに自ら課題を見つけ、進んで学習に取り組んだり学びあったりできる児童・生徒の育成を目指しました。

〈内容〉

つながり

● 学校間や地域との連携を図った児童・生徒会活動の活性化

「あいさつ運動」「人権集会」「ボランティア活動」等を通して様々な人と関わることで自尊心や自己存在感の高揚を図ろうとしました。

地域との交流や活動を大切にして、児童・生徒それぞれが自分を見つめ、生き方を考え、活動の幅を広げられるよう声かけを行いました。

活動例

- 「大野原まんできんあいさつ日」
- 「大野原っこラブラブ大野原デー」
- 「ひうち荘訪問」



【ひうち荘訪問…ふれあい活動】

● 集団づくりを推進する学級活動の活性化

よりよい人間関係づくりのため学活や帰りの会で、友だちのよさを認めたり賞賛したりする取り組みを行いました。

授業や日常生活において、友だちの話をよく聞いたり、お互いの考えを尊重したりする学級風土や温かい人間関係を構築できるよう工夫しました。

活動例

- 「ひみつの友だち発見」
- 「きらり」の時間設定
- 「すてきだねカード」
- 「しまったカード」



【学級旗制作】

〈成果〉

校区内の各小学校と中学校の管理職・生徒指導主事・養護教諭・特別支援教育担当等の連携の高まりと相互の授業参観で教員の連携意識高揚が見られています。

1年時から生徒間の仲がよく、学習や行事で学級や学年団が協力できる姿がいつも見られています。

高まり